

**CASBEE 京都-新築 (2010年版)**  
**グラフィック第三工場**

■使用評価マニュアル CASBEE 京都-新築 (2010年)  
 ■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2010(v.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>2.6</b>
<b>1 音環境</b>									<b>2.8</b>
<b>1.1 騒音</b>									
1	室内騒音レベル			3.0	1.00	1.0	-		
2	設備騒音対策			-	-	-	-		
<b>1.2 遮音</b>									
1	開口部遮音性能			3.0	0.60	1.0	-		
2	界壁遮音性能			2.0	0.40	1.0	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			1.0	-	1.0	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			1.0	-	1.0	-		
<b>1.3 吸音</b>									
				3.0	0.20	1.0	-		
<b>2 温熱環境</b>									<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>									
1	室温			3.0	0.50	1.0	-		
2	急激変動・急位制御性			-	-	-	-		
3	外皮性能			3.0	0.25	1.0	-		
4	ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-		
5	漏風・漏熱制御			-	-	-	-		
6	個別制御			-	-	-	-		
7	時間外空調に対する配慮			-	-	-	-		
8	監視・アラーム			-	-	-	-		
<b>2.2 湿度制御</b>									
				3.0	0.20	1.0	-		
<b>2.3 空調方式</b>									
				3.0	0.30	1.0	-		
<b>3 光・視環境</b>									<b>2.1</b>
<b>3.1 昼光利用</b>									
1	昼光率	●自然	A(全国標準用)	1.0	0.60	1.0	-		
2	方位別開口			-	-	1.0	-		
3	昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)	3.0	0.40	3.0	-		
<b>3.2 グレア対策</b>									
1	眩明器具の対策			2.0	0.30	-	-		
2	昼光制御	●自然	B(推奨内容)	2.0	1.00	1.0	-		
3	遮光対策			-	-	-	-		
<b>3.3 照度</b>									
				2.0	0.15	1.0	-		
<b>3.4 照明制御</b>									
				3.0	0.25	1.0	-		
<b>4 空気質環境</b>									<b>2.6</b>
<b>4.1 発生源対策</b>									
1	化学汚染物質			3.0	0.50	-	-		
2	ホルムアルデヒド対策			-	1.00	3.0	-		
3	臭気対策			-	-	-	-		
4	カビ対策			-	-	-	-		
<b>4.2 換気</b>									
1	換気量			3.0	0.30	-	-		
2	自然換気性能	●自然	A(全国標準用)	1.0	0.33	1.0	-		
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.33	1.0	-		
4	換気計画			-	-	-	-		
<b>4.3 運用管理</b>									
1	CO <sub>2</sub> の監視			3.0	0.50	-	-		
2	喫煙の制御			1.0	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>									<b>2.2</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>									
1	広さ・収納性			3.0	0.40	1.0	-		
2	高度情報通信設備対応			1.0	0.33	3.0	-		
3	バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)	3.0	0.33	-	-		
<b>1.2 心理性・快適性</b>									
1	広さ感・景観	●とも	C(独自加点)	2.0	0.30	-	-		
2	リフレッシュスペース			4.0	0.33	3.0	-		
3	内装計画	●内装	D(独自基準)	1.0	0.33	-	-		
<b>1.3 維持管理</b>									
1	維持管理に配慮した設計			2.5	0.30	-	-		
2	維持管理用機能の確保			2.0	0.50	-	-		
				3.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>2.8</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>									
1	耐震性			3.0	0.48	-	-		
2	免震・制振性能			3.0	0.80	-	-		
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>									
1	躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国標準用)	2.7	0.33	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			2.0	0.23	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.09	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.08	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.15	-	-		
				3.0	0.23	-	-		

2.4 信頼性					2.8	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備			PHS網の導入、地下階無しとした	4.0	0.20			
3 対応性・更新性					4.1	0.29			4.1
3.1 空間のゆとり					4.6	0.31			
1	階高のゆとり			平均階高4.08M 設置機械の変化へ対応し易くし	5.0	0.60	1.0		
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率0.057 設置機械の変化へ対応し易くし	4.0	0.40	1.0		
3.2 荷重のゆとり				5400N/m <sup>2</sup> 以上 設置機械の重量への対応	5.0	0.31	2.0		
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.40			2.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30			2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.4
LR1 エネルギー					-	0.40			4.0
1 建築物の熱負荷抑制									
2 自然エネルギー利用					4.0	0.29			4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)		5.0	0.50			
3 設備システムの高効率化					4.7	0.43			4.7
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=30.7%	4.7				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.29			3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.0
1 水資源保護					3.0	0.15			3.0
1.1 節水					3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.1	0.63			3.1
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	ALC外壁、LGS下地PB貼天井で解体し易くなった	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.5	0.22			2.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					2.3	0.68			
1	消火剤				2.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)				2.0	0.33			
3	冷媒				3.0	0.33			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮					3.5	0.33			3.5
2 地域環境への配慮					3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止					5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	オール電化して燃焼機器は全く使用していない	2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減				-	-			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3	交通負荷抑制				3.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.50			
2	振動				3.0	0.50			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				3.0	-			
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ● 重点項目 ○ 低炭素美術館創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」大切に使う「とも」ともに使う「自然」自然からつくる